

令和7年度 第1回豊明市文化財保護委員会会議録

日 時：令和7年5月23日（金）

場 所：豊明市役所新館3階 教育委員会室

出席者：佐野委員、近藤委員、相場委員、鈴木委員、岡村委員、永井委員、鬼頭委員、岩本委員

事務局：藤井教育長、浅井教育部長、山田生涯学習課長、赤坂文化・スポーツ担当係長、岸田専門員

傍聴人：1名

1 委嘱状交付

（1）委員長の選出について

佐野和子委員を選出

（2）副委員長の選出について

委員長の指名により近藤俊秀委員を副委員長とする。

2 教育長挨拶

先日、NHK テレビで「学校の先生が薦める博物館」という番組をみて興味を持ち、4月に伊勢神宮外宮の遷宮館を訪れた。伊勢神宮の遷宮の歴史が詳しく紹介されており感銘を受けた。多くの方に地域の歴史や文化に関心を持っていただけるようにしたいと考えている。

3 議題

（1）令和6年度 文化財保護事業報告について

令和7年度 文化財保護事業計画（案）について

（事務局説明）

- ・1年間の歴史民俗資料室来場者数は3月末現在、4,268人でリニューアル後の過去3年間で最も多い人数となった。
- ・文化財講座については5回実施した。そのうち、「竹あかりの制作」から「ナイトミュージアム」まで特別展に向けての講座を4回実施した。なお、特別展「豊明の伝説―万物に宿る精霊・妖怪―」は、8月10日から10月19日まで開催し、1,146人の見学者数であった。今後、特別展の記録誌を作成していきたいと考えている。
- ・企画展「わが家にテレビがやってきた！昭和30年代・40年代の暮らし」は、11月1日から令和7年1月25日まで開催し、1,332人の見学者数であった。
- ・今年前半の文化財講座は自然に特化して「大狭間湿地についてもっと知ろう」と題し、3回講座で実施する。大狭間湿地は豊明二村山自然観察会に委託して保全活動を行っていただいているが、会員の高齢化が進んでいるため、若い方にも参加してもらおうきっかけ作りになればと思っている。

（委員）特別展について記録に残すためにも、是非、記念誌を作成していただきたい。

（2）ナガバノイシモチソウ・大狭間湿地の一般公開について

（事務局説明）

- ・今年度も豊明高校の生徒や文化財保護委員の皆様に協力をお願いする。なお雨天の場合は開

催を中止する。

(3) 文化財の指定について

(事務局説明)

- ・来年度の企画展に関連し、市内寺院に所蔵される仏像の市指定を考えている。
本像については5年前に市民の方からの問い合わせがあり、年1回の御開帳日に見させていただいた経緯がある。有識者の方々からの意見も聞いており制作年代については室町時代の特徴を示す古い形式の作例と推定される。また、市内において唯一現存する作例であることから、希少性を有している。

(永井委員)

来歴を辿るため科学的調査を出来れば行ってほしい。指定にあたっては鑑定が重要である。

4 その他

○ナガバノイシモチソウの遺伝子解析結果について

(事務局)

(鬼頭委員)

2024年は2023年に比べ、生育個体数および開花個体数は増加した。1回目の一般公開時には、生育個体数、開花個体数ともに例年以上に増加していたが、2回目の公開時には個体数が急激に減少し、例年の6割程度であった。また、イシモチソウ群落も例年黄緑色をしているが、昨年2回目の公開時は褐色を呈していた。長く続いた猛暑の影響と思われる。また、蒴果の大きさも2024年は例年に比べ小さくなり、蒴果に内在する種子数も減少していた。これらの現象も長期間に及んだ猛暑の影響と思われ、来年度以降も注視していく必要がある。

(永井委員)

このデータは貴重なもので、データ公表の場として紀要の形で残していくといいのでは。データを公開することは考えていないのか

(事務局)

検討させていただきたい。

○文化財保護委員会視察研修について

(事務局説明)

視察先は島田地蔵寺と愛知県陶磁美術館を予定している。県陶磁美術館の特別展は12月15日から開催されるので、そのタイミングで訪問したいと考えている。

次回文化財保護委員会の日程については、令和8年2月27日（金）午前10時に開催